

津市総合計画後期基本計画の策定に係る踏まえるべき 主な視点について（案）

豊かな文化と心が育むまちづくり
・参加と協働のまちづくり分科会

このことについて、当分科会において、「豊かな文化と心が育むまちづくり」及び「参加と協働のまちづくり」に係る協議を行い、その結果を下記のとおりまとめました。

記

1 委員構成

小泉委員（分科会長）、海住委員（副分科会長）、石見委員、今井委員、大幡委員、川北委員、須山委員、田部委員、中川委員、長谷川委員、服部委員

2 後期基本計画の策定に係る踏まえるべき主な視点

(1) 豊かな文化と心を育むまちづくり

施策名	計画策定に係り踏まえるべき主な視点
生きる力を育む教育の推進	<p>【まとめ】 地域と学校の交流を促進し、相互の連携と協力により、強い絆を築き、家庭教育の強化と地域で子どもを育てる環境の整備が必要である。</p> <p>【委員からの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生は管理職を中心に孤立しがちであるため、サポートする体制ができないか。 ・各地域で活動している先生の取り組みを連携させて広げていくことができないか。 ・子どもの健全育成には、家庭教育が重要な役割を果たすが、現状では家庭教育が崩壊している。この充実することが必要である。 ・PTAは学校に口出しせずに学校に任せるべきである。それよりも、まず家庭の教育ができていないことを問題とすべきである。 ・本来、親が教育すべきことを学校に押しつける親がいる。まず、親の教育をやるべきである。この役割を担うのが、社会教育主事である。 ・声かけ運動の成果ではないかと考えるが、犯罪が少なくなった。 ・中学生の学校クラブ活動やスポーツ少年団は休み無しの年中無休で行っている。週1日は休みとして、家庭人、地域人として還す必要がある。

<p>高等教育機関との 連携・充実</p>	
<p>生涯学習スポーツ 社会の実現</p>	<p>【まとめ】 社会教育主事等の人材を生かすとともに、リーダーの育成にも資する質の高い講座を開催するなど公民館機能を強化する必要がある。 各地域が連携したイベントの開催などなどのほか、現在整備が進められている屋内総合スポーツ施設のみならず屋外総合スポーツ施設の建設も検討を行い、市のスポーツ力のボトムアップを図るべきである。 青少年の健全育成として、小学生だけでなく、中学生や高校生の地域活動への参加を促進する必要がある。</p> <p>【委員からの意見】 (生涯学習) ・公民館活動も合併後、施設を利用するには料金をとられるために特に高齢者は利用しなくなった。公民館の役割を考えてほしい。 ・公民館が貸館業務中心となって、主催事業が少なくなっている。地域の課題・問題を考え、地域のリーダーを養成する本来の役割を果たしていない。 ・公民館では、課題講座と教養講座を開催しているが、特に教養講座はマンネリ化している。 ・津市にはこれまで社会教育主事の資格を持つ人がいなかった。学校教育と社会教育を結ぶ役割を担っているのは社会教育主事であり、学校の先生が地域に入るのは限界があるし、自治会長でもできない。資格取得を促す必要がある。 ・公民館の利用が有料となったので、団体が会議をするにはやりにくくなっており、この面の配慮が必要である。</p> <p>(スポーツ振興) ・スポーツレクリエーションの事業は、旧町村単位で引き続き実施していたが、今年は経ヶ峰登山を安濃、芸濃が連携して実施することになっており、まず北部エリアとして連携して活動し、さらに全市に活動の輪を広げていきたい。 ・屋外型総合スポーツ施設の整備が進められているが、屋内よりも屋外でスポーツ活動している人が多いことから、屋外型のスポーツ施設の整備が必要である。施設が少ないために、安濃中央総合公</p>

	<p>園の集中している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団の数は多いが、サッカーなどの特定のスポーツに偏っており、他と一緒にできないスポーツ少年団もみられる。 <p>(青少年の健全育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動に高校生、中学生の参加が少ない。こうした空白となっている。こうした空白となっている子どもの参加を促すために、この年代の子どもで実行委員会をつくって「こども祭り」を企画・開催することを提案したい。
<p>文化の振興</p>	<p>【まとめ】</p> <p>市民が活動しやすい施設の在り方を検討するほか、地域の歴史的資源については、その保存・活用方法のほか、もっと市民の方々に知ってもらおう仕掛けづくりも必要である。</p> <p>【委員からの意見】</p> <p>(文化、芸術活動の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久居駅東口の旧市民会館は耐震性の問題もあり、合併の約束で建て替えられることになっているが現在は白紙の状態である。 ・市内には、小さいホールは多数あるが1,000人規模のホールが無いことから、是非1,000人規模でしかも優れた音響設備を備えたホールを整備してほしい。 <p>(歴史的資源の保存と活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白山地区では「かんこ踊り」を3地区で続けてきたが次第に廃れてきた。その原因は、合併後助成金が無くなったため、人はいても資金面で続けていくことが難しくなっている。地域の伝統文化を復活させる方策を考えていく必要がある。 ・それぞれの地域に眠っている文化的遺産を何らかの形で残す必要がある。例えば、白山町の家城ラインの疎水として残っており、住民は修復を望んでいる。 ・北畠館史跡を津市民がどれだけ知っているか疑問である。同じ年代に廃れた福井県の朝倉家遺跡は保存のための整備が進んでいるが、北畠館史跡の保全・整備は遅れている。この史跡の価値をまず津市民に理解してもらうことが重要である。そのためにも市民が触れることができる施策が必要である。 ・北畠館史跡のある伊勢本街道にあたる道路には白いガードレールが設置されているが、歴史的遺産にふさわしい雰囲気ガードレールにしてもらいたい。

	<p>たい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併して津市は市域が広がったため、知らない地域の資源が多く、それを市民に知ってもらいたい。 ・観光ボランティア団体が13団体あり、これらの団体がネットワークをつくり、ふるさと学の検定試験を実施する。検定のためのテキスト作成しており、各地域の歴史を学ぶ良い機会となる。
人権尊重社会の形成	

(2) 参加と協働のまちづくり

施策名	主な意見
市民活動の促進	<p>【まとめ】</p> <p>自治会等における地域リーダー等の人材が育成されやすい環境の整備や地域住民が交流する機会の創出等による地域連帯の強化を図る必要である。</p> <p>市民活動団体等の交流や活動の場、また、団体間の情報交換の充実を図り、団体間の連携等による課題解決できる仕組みが必要である。</p> <p>【委員からの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流、地域間交流が難しくなっている。働き盛りの年代に加えて、80歳代以上の高齢の人の参加ができなくなっている。 ・自治会長が毎年交代している自治会が多く、地域の人材育成ができない。そのため、地域力が弱っている。 ・指定管理者の対象施設を拡大し、競争させることにより市民活動組織の底上げを図る。 ・ボランティア連絡協議会が組織化されているが参加者の高齢化が進んでいる。津全体でボランティア祭りを開催して、ボランティア団体・グループの周知を図り、若い人の参加を募り、組織づくりにつなげていくことを提案したい。 ・中間支援組織の機能強化等により、支援のあり方や行政と連携の強化を図る必要がある。
市民との協働の推進	

